

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	3 ボランティア活動・教育 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	3.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1) 方針、実施内容	
	(KG2) ボランティア活動実践への対応	
	(KG3) ボランティア活動に関する課題の把握	
	(KG4) ボランティア教育の現状	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを軸としてボランティア理解を整理し、本学独自の活動のあり方の理念的根拠を明確化する。	→ ミッションステートメントにもとづく学院ボランティア理解の提示	C	B	B	B	/
2. これまで展開されてきた活動の系譜を整理するとともに、ミッションステートメントを受けてどのように継承・発展させるか、その展望を明示する。	→学院ボランティア活動の系譜理解と、その継承・発展のためのマテリアル作成、配布状況	D	C	C	B	/
3. ボランティア活動を学生などによる自主的活動という位置づけから、積極的に大学の正課教育活動としてとらえ直し、Service Learningとしての内実を求める。	→正課カリキュラム上でのボランティア関連科目の設置、受講者数	D	C	C	B	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	スピリットブック『輝く自由』に記載されているボランティア活動を必修のキリスト教教育科目で紹介したり、同科目内で、学内の学生ボランティア団体による活動紹介を行い、建学の精神及びスクールモットーとのつながりを具体的に提示している。
目標2	学内のボランティア活動の実態を調査し、本学におけるボランティア活動の将来的な計画に関する課題の検討を行った。
目標3	ヒューマンサービスセンターのこれまでの活動を継承し、発展させるために「ボランティア支援室(仮称)」を大学の組織して新たに設置するための準備を行い、また正課への位置づけについての検討を進めている。
備考	